SCREEN

2017年3月期 決算説明会

2017年5月9日

資料取り扱い上の注意

・本資料および口頭にて提供する業績予想は、当社が発表日現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績などは様々な要因により大きく異なる可能性があります。
・本資料に記載しております数字につきましては、単位未満切捨てで処理しております。比率は四捨五入しております。

株式会社SCREENホールディングス
代表取締役 取締役社長 最高経営責任者（CEO）

垣内 永次

SCREEN

2017年3月期決算のポイント

- 営業利益337億円、営業利益率11.2%、過去最高
  4期連続の増収増益

- 中期経営計画の数値目標達成
  ・営業利益率11.2%
  ・自己資本比率47.5%（実質50%）

- ネットキャッシュの通年維持

- SE>>
  ・売上高、営業利益、通期受注累計額、過去最高
  ・SPE上位10社中、売上成長率でトップ(CY2016)
  ・枚葉洗浄装置、世界シェア13ptアップ(CY2016)

SCREEN

本日のアジェンダ

1. 2017年3月期　連結業績

2. セグメント別業績概況

3. 財務状況

4. 2018年3月期　業績予想

5. 中期3カ年経営計画について

SCREEN

1. 2017年3月期　連結業績

2. セグメント別業績概況

3. 財務状況

4. 2018年3月期　業績予想

5. 中期3カ年経営計画について

SCREEN

連結業績　<2017/3月期>

(億円)	2016/3月期 1Q	2Q	3Q	4Q	通期	2017/3月期 1Q	2Q	3Q	4Q	通期	前期比 通期（増減）	
売上高	**561**	**737**	**530**	**768**	**2,596**	**622**	**738**	**738**	**902**	**3,002**	**405**	**15.6%**
SE	347	472	320	517	1,658	412	503	506	637	2,060	402	24.3%
GP	147	165	138	161	612	114	146	120	166	547	▲65	▲10.7%
GA(印刷関連機器)	126	140	124	130	523	96	124	104	132	458	▲64	▲12.4%
PE(プリント基板関連機器)	20	25	13	30	89	18	21	16	33	89	▲0	▲0.6%
FT	63	96	69	87	315	93	86	108	93	381	65	20.6%
その他および調整	3	2	2	2	10	1	2	3	5	12	2	27.8%
営業利益	**32**	**75**	**41**	**85**	**235**	**51**	**70**	**91**	**124**	**337**	**101**	**43.2%**
営業利益率(%)	**5.9**	**10.2**	**7.9**	**11.2**	**9.1**	**8.2**	**9.6**	**12.4**	**13.7**	**11.2**	**-**	**2.2pt**
SE	21	58	30	77	187	43	60	80	108	293	106	56.6%
GP	9	7	4	9	31	▲1	10	2	10	22	▲9	▲29.8%
FT	1	14	6	5	27	12	5	11	14	43	16	59.8%
その他および調整	0	▲4	0	▲6	▲10	▲3	▲5	▲3	▲9	▲21	▲11	-
経常利益	**34**	**71**	**41**	**84**	**231**	**50**	**66**	**90**	**112**	**320**	**88**	**38.1%**
親会社株主に帰属する当期純利益	**22**	**62**	**34**	**68**	**188**	**37**	**57**	**68**	**78**	**241**	**53**	**28.5%**

SE：セミコンダクターソリューション事業　GP：グラフィックアンドプレシジョンソリューション事業
FT：ファインテックソリューション事業

●好調なSE、FT事業の業績を受け、前期比、増収増益でした
売上高：405億円増(+15.6%)、営業利益：101億円増(+43.2%)
当期純利益：53億円増(+28.5%)

●2月予想からも増収増益でした
売上高　：2月予想(2,940億円)比62億円増(+2.1%)
営業利益：2月予想(310億円)比27億円増(+8.8%)
但し、当期純利益のみ、2月予想(245億円)比▲3億円
(法人税等調整額の影響)

SCREEN

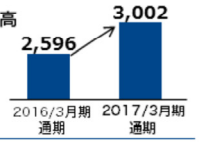
連結業績サマリー　<2017/3月期>

前期比

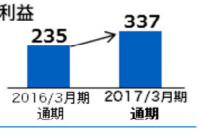
(億円)	2016/3月期 通期	2017/3月期 通期	増減	
売上高	2,596	3,002	405	15.6%
営業利益 営業利益率	235 9.1%	337 11.2%	101 2.2pt	43.2%
経常利益	231	320	88	38.1%
親会社株主に帰属する当期純利益	188	241	53	28.5%

前期比

売上高



営業利益



前四半期比

(億円)	2017/3月期 3Q	2017/3月期 4Q	増減	
売上高	738	902	163	22.1%
営業利益 営業利益率	91 12.4%	124 13.7%	32 1.4pt	35.6%
経常利益	90	112	21	23.5%
親会社株主に帰属する当期純利益	68	78	9	13.9%

SCREEN Holdings Co.,Ltd.

●連結業績サマリー

売上高：3,002億円は過去2番目です

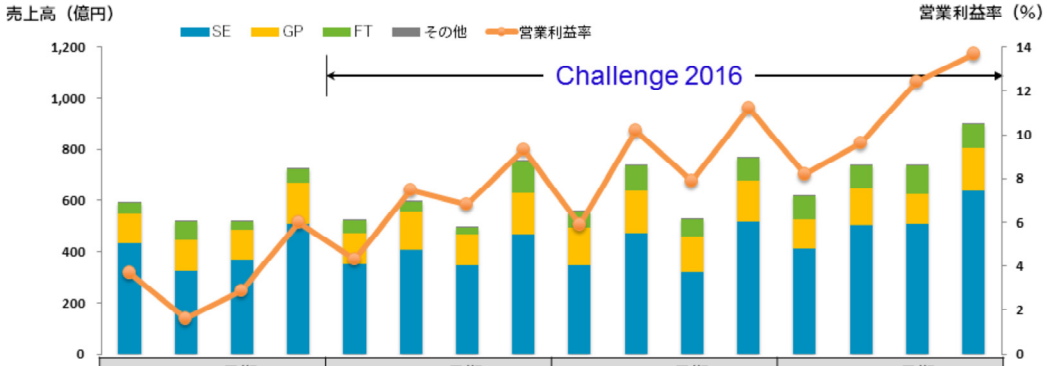
営業利益：337億円は過去最高です

営業利益率：11.2%は過去最高です

営業利益率：4Q：13.7%、通期：11.2%はともに最高レベルです

SCREEN

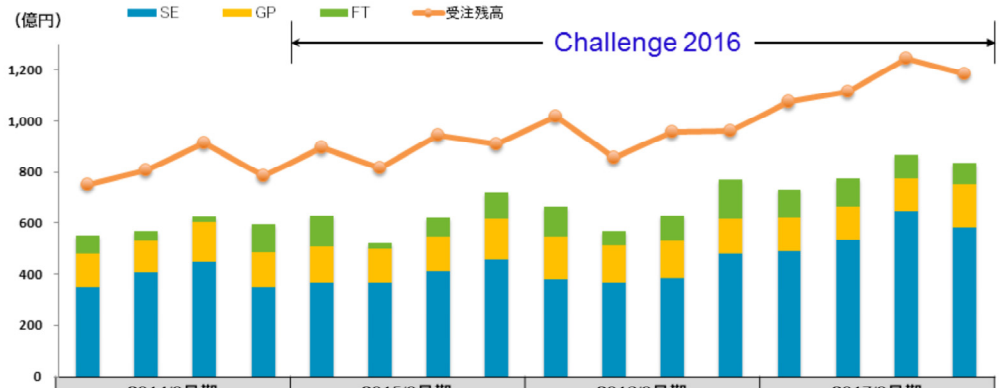
連結売上高/営業利益の四半期推移



（億円）	2014/3月期				2015/3月期				2016/3月期				2017/3月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	**593**	**518**	**521**	**726**	**524**	**600**	**498**	**753**	**561**	**737**	**530**	**768**	**622**	**738**	**738**	**902**
SE	433	323	367	506	351	406	346	470	347	472	320	517	412	503	506	637
GP	116	124	117	162	121	150	121	162	147	165	138	161	114	146	120	166
FT	41	68	33	55	49	40	28	119	63	96	69	87	93	86	108	93
その他	1	2	2	2	1	1	1	1	3	2	2	2	1	2	3	5
営業利益	**22**	**8**	**15**	**43**	**22**	**44**	**33**	**70**	**32**	**75**	**41**	**85**	**51**	**70**	**91**	**124**
営業利益率(%)	**3.7**	**1.6**	**2.9**	**6.0**	**4.3**	**7.5**	**6.8**	**9.3**	**5.9**	**10.2**	**7.9**	**11.2**	**8.2**	**9.6**	**12.4**	**13.7**

SCREEN

連結受注高/受注残高の四半期推移



(億円)	2014/3月期				2015/3月期				2016/3月期				2017/3月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
受注高	553	572	625	596	632	521	620	718	667	573	630	770	731	776	866	837
SE	351	407	450	351	366	369	411	459	381	367	386	481	491	533	648	581
GP	129	122	153	134	141	132	137	160	164	144	144	135	129	131	127	171
FT	73	42	21	110	125	20	72	98	121	60	99	154	111	111	90	85
受注残高	750	806	912	784	893	817	941	907	1,017	855	958	962	1,073	1,114	1,245	1,185

7

SCREEN Holdings Co.,Ltd.

● 4Q受注高>>

全社：837億円　3Q(866億円)に続き高水準です

SE：　581億円　3Q(648億円)には及ばなかったものの、引続き高水準です

FT：　　85億円　3Q(90億円)とほぼ同レベルで好調さをキープしました

● ４Q受注残高>>

全社：1,185億円 4Q売上(902億円)が高く、3Q(1,245億円)を若干下回りましたが、好調が続き、高水準をキープしました

SCREEN

1. 2017年3月期　連結業績

2. セグメント別業績概況

3. 財務状況

4. 2018年3月期　業績予想

5. 中期3カ年経営計画について

SCREEN

セグメント別業績概況　＜SEセグメント＞

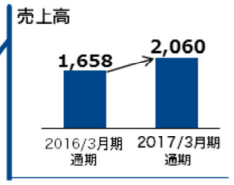
前期比

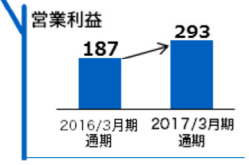
(億円)	2016/3月期 通期	2017/3月期 通期	増減	
売上高	1,658	2,060	402	24.3%
営業利益 営業利益率	187 11.3%	293 14.2%	106 2.9Pt	56.6%

前四半期比

(億円)	2017/3月期 3Q	2017/3月期 4Q	増減	
売上高	506	637	131	25.9%
営業利益 営業利益率	80 16.0%	108 17.0%	27 1.0pt	33.8%

前期比





- 通期、ファウンドリーの微細化投資向けの伸長が大きく貢献。3D-NAND向け装置売上、前期比で約2倍に増加、売上増を牽引
- 2018/3月期は、ファウンドリー/ロジックの微細化投資にも期待。3D-NANDのさらなる多層化投資、DRAMの微細化投資が市場を牽引すると予想期末には中国の新興ユーザーの投資開始の可能性もあり、好調な市場環境の維持を予想

●好調な市況もあり、前期比、前四半期比ともに増収増益でした
ファウンドリーの微細化とフラッシュメモリー(3D-NAND)の積層化投資が牽引しました。

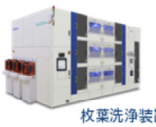
●前期比：
装置別：枚葉洗浄装置 、バッチ洗浄装置ともに増加しました
地域別：台湾、中国の伸びが顕著でした
欧州も増加傾向、韓国は微増、北米、日本は減少しました

SCREEN

セグメント別業績概況　＜SEセグメント＞

ホット・トピックス

- 過去最高の売上高・営業利益・受注累計を達成 ＜FY2017＞
  営業利益率も最高レベルに迫る
- SPEメーカー上位10社中、売上成長率でトップを記録 ＜CY2016＞
- 主力の枚葉洗浄装置、世界シェア13ptアップ ＜CY2016＞

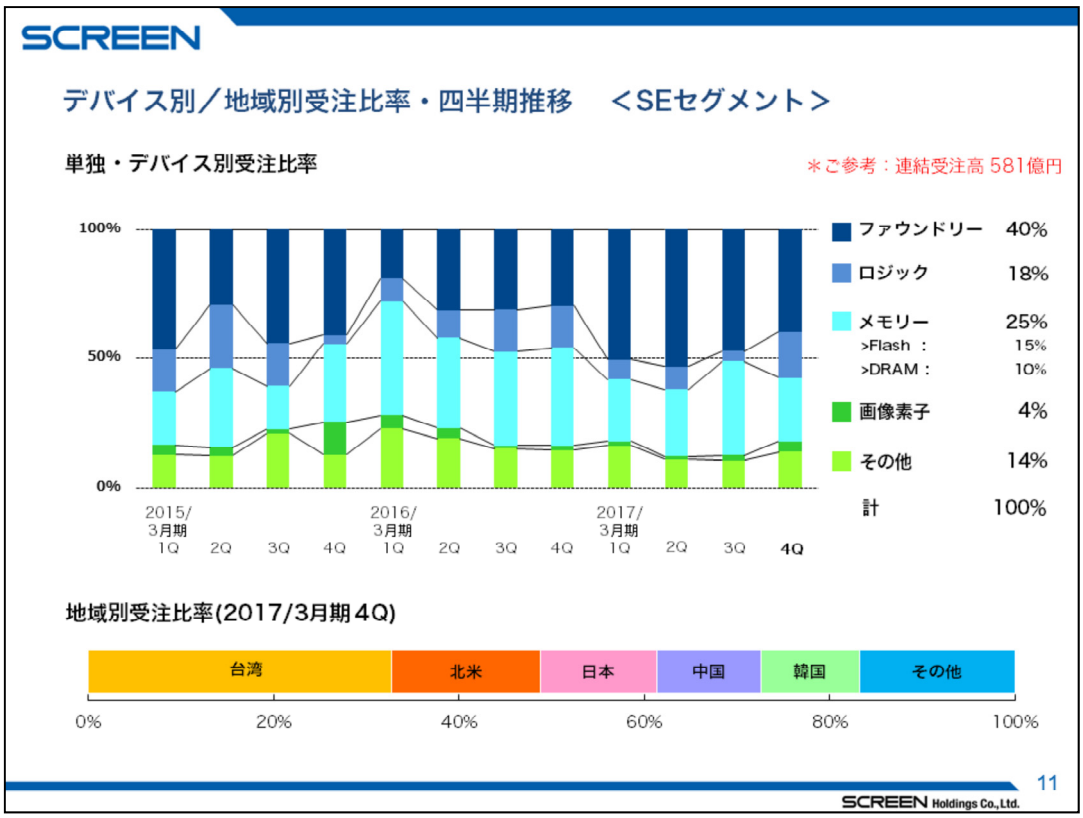


枚葉洗浄装置 SU-3200

- ビジネス拡大に向け、注力分野に新製品を投入達成 ＜FY2017＞
  - ・主にメモリー分野(枚葉洗浄装置 SU-3300)
  - ・Advanced Package分野(直接描画装置 DW-3000 for PLP)
  - ・ロジック、メモリー、パワーデバイス向け(UVレーザーアニール装置 LT-3100)

●過去最高の売上高2,060億円、営業利益293億円、通期受注累計2,254億を達成しました
営業利益率(14.2%)も過去最高(2011/3月期 16.1%)に迫るレベルでした

●枚葉洗浄装置は、世界シェア13ptアップ(53%)しました
(Gartnerベース)



●4Q受注高：581億円
過去最高と思われる3Q(648億円)には及ばないものの、非常に高い水準をキープしました

●デバイス別
ファウンドリー(47% →40%)はやや減少するも、3Qに続き好調でした
ロジック(4%→18%)が伸びました
メモリーでは、DRAM(21%→10%)投資に一服感がありました

SCREEN

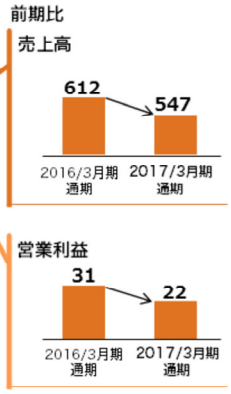
セグメント別業績概況　＜GPセグメント＞

前期比

(億円)	2016/3月期 通期	2017/3月期 通期	増減	
売上高	612	547	▲65	▲10.7%
営業利益 営業利益率	31 5.2%	22 4.1%	▲9 ▲1.1pt	▲29.8%

前四半期比

(億円)	2017/3月期 3Q	2017/3月期 4Q	増減	
売上高	120	166	45	37.5%
営業利益 営業利益率	2 2.0%	10 6.5%	8 4.5pt	344.8%



- 印刷関連機器事業（GA）は年前半は苦戦するも、期末に掛けて北米でPOD伸長。2018/3月期は、PODの販売強化（特に北米、欧州）をさらに進め、売上、収益ともに改善を図る
- プリント基板関連機器事業（PE）は、アジアでまとまった商談があり、上期に比べて下期は回復。今後は、新製品リリースなどにより売上拡大を目指す

●GAの上期は、4年に一度の展示会Drupa前の買い控えに苦戦しましたが、下期、特に4Qは、上期と比べ、北米、欧州で売上、営業利益ともに改善しました

●PEは、中国、台湾でまとまった受注を獲得し、それにより、上期比で下期は回復しました
PEは、今年4月より独立セグメントとしてスタートしました
2018年3月期は、新製品リリースを予定、売上拡大を目指します

●GAは、前期から進めている収益構造改革により、売上、収益ともに増加を目指します

SCREEN

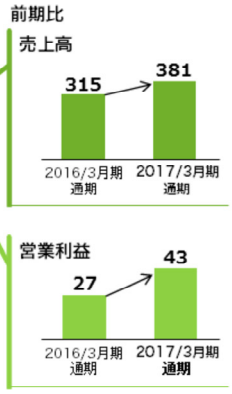
セグメント別業績概況　＜FTセグメント＞

前期比

(億円)	2016/3月期 通期	2017/3月期 通期	増減	
売上高	315	381	65	20.6%
営業利益 営業利益率	27 8.7%	43 11.5%	16 2.8pt	59.8%

前四半期比

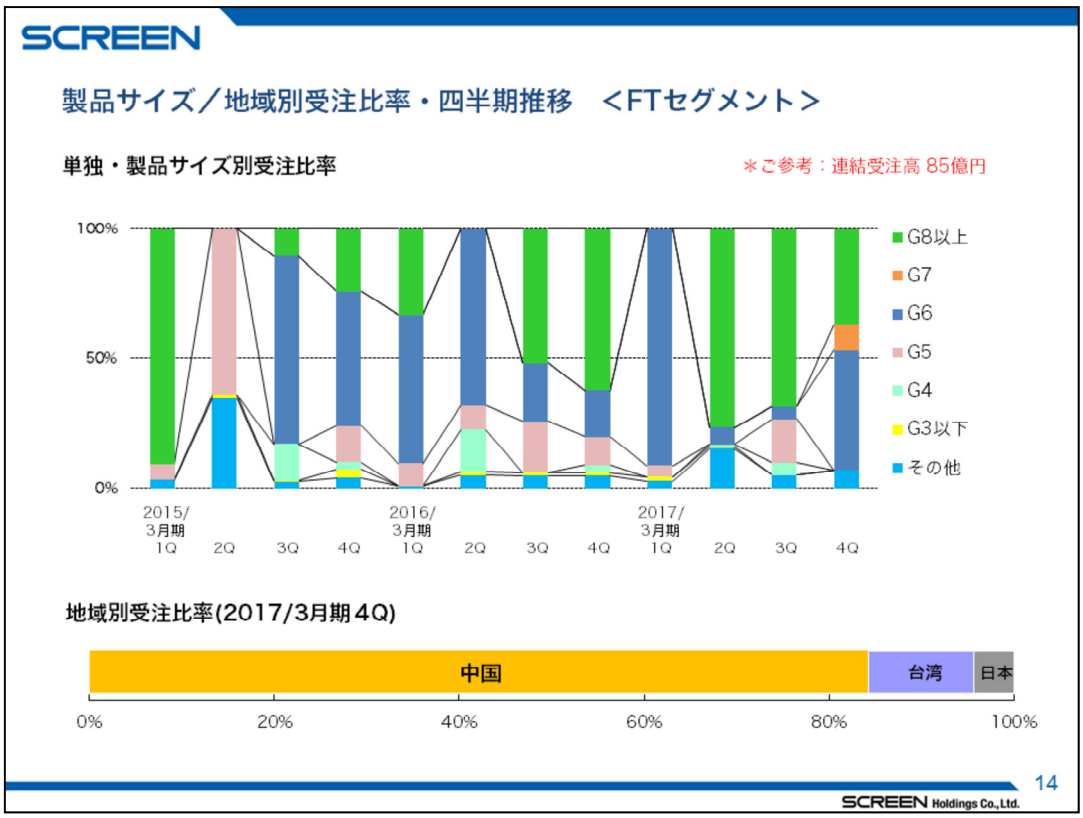
(億円)	2017/3月期 3Q	2017/3月期 4Q	増減	
売上高	108	93	▲14	▲13.7%
営業利益 営業利益率	11 11.0%	14 15.3%	2 4.3pt	20.0%



- 通期ベースでは、中小型が前期比で1.6倍に増加。中小型、大型サイズともに、収益拡大に寄与
- 新規事業領域で売上20億円を突破
- 2018/3月期は、LCDのみならず、OLED関連装置の売上が増加する予定。加えて、新規事業領域の拡大を見込む

●通期ベースでは、中期経営計画の数値目標を達成しました
→営業利益率11.5%になりました

●サイズ別では、前期比で、中小型が1.6倍になり増加、大型を上回りました
→中小型、大型ともに、安定的に利益を出せるようになりました



●4Qの受注高は85億円。
　→受注残は5四半期連続で400億円レベルで推移しました

●４Q受注の中味は、サイズ別では、
　中小型が50%弱、大型（G8以上）は40%弱でした

　上記のうち、
　OLED関連が5%弱、新規事業が５%程度でした

●通期受注累計では、全体受注の30%程度がOLED関連でした

SCREEN

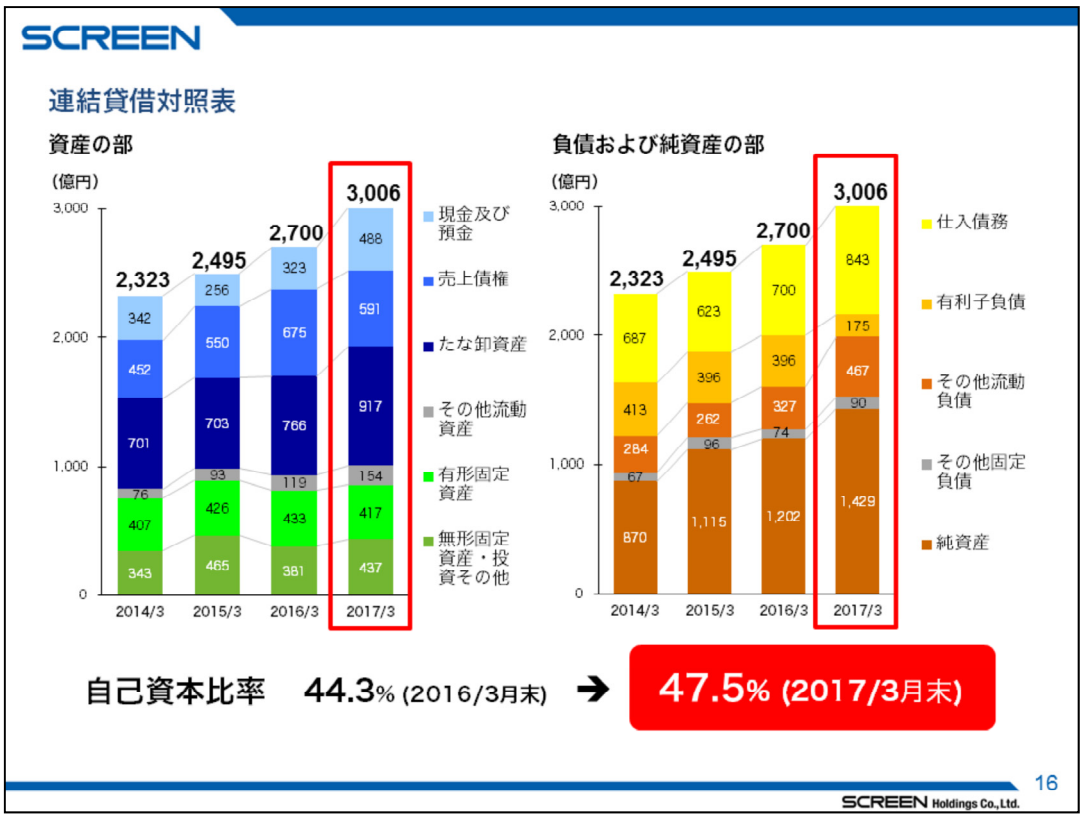
1. 2017年3月期　連結業績

2. セグメント別業績概況

3. 財務状況

4. 2018年3月期　業績予想

5. 中期3カ年経営計画について



前期末(2016/3月末)との比較：

●総資産は3,006億円、前期比305億円増加(＋11.3%)しました

●資産の部の増加理由：

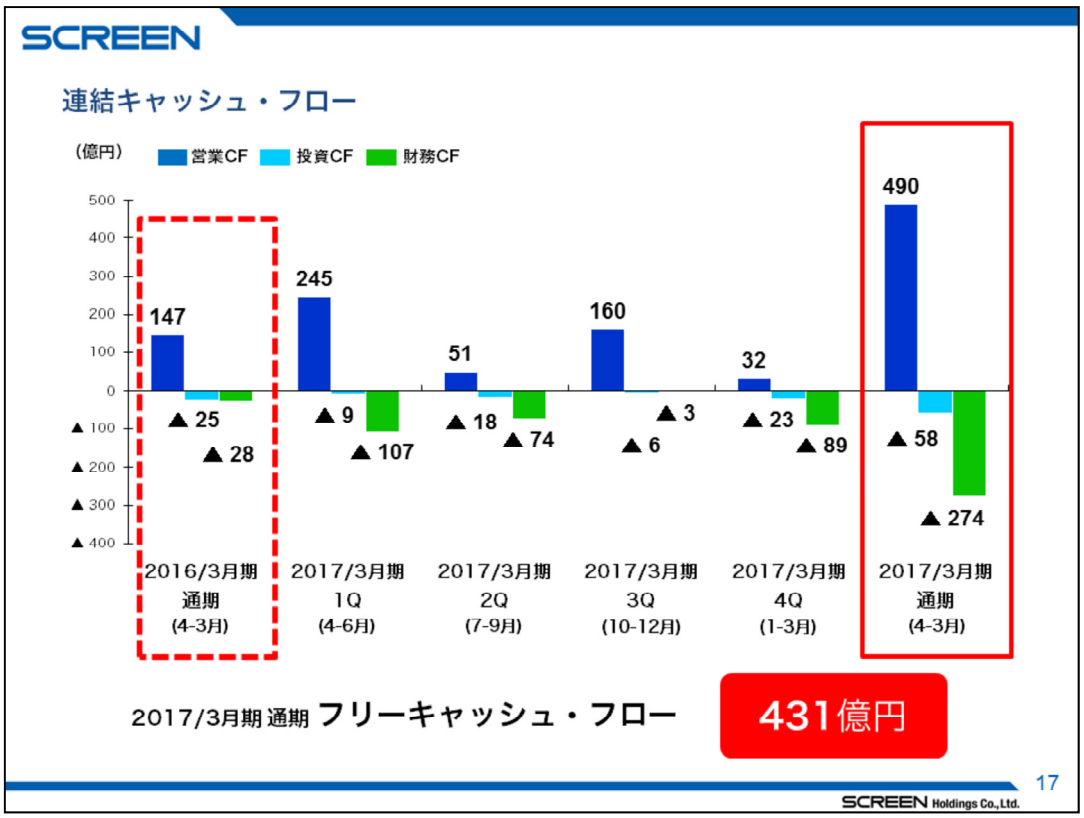
→受取手形及び売掛金が減少した一方で、
売上増加に伴い、現金及び預金とたな卸資産が増加したためです

●負債および純資産の部の増加理由：

→負債は1,577億円、前期比79億円増加(＋5.3%)
有利子負債が減少した一方で、
売上増加に伴い、仕入債務や前受金が増加したためです

→純資産は1,429億円、前期比226億円増加(＋18.8%)
売上増加に伴い、親会社株主に帰属する当期純利益の計上により、
利益剰余金が増加したことに加え、有価証券評価差額金も増加したためです

●上記の結果により、自己資本比率は47.5%となりました



当期(2017/3月期)の連結キャッシュ・フロー

●営業キャッシュ・フローは490億円の収入

→前期147億円の収入からは、大幅に改善しました

→継続的なCCC改善に取り組んだ結果、リーマンショック以降最大の営業キャッシュ・フローになりました

売上債権の減少、仕入債務の増加、前受金の増加などの収入項目が、たな卸資産の増加などの支出項目を上回りました

●投資活動によるキャッシュ・フローは、58億円の支出

→研究開発設備などの有形固定資産を取得しました

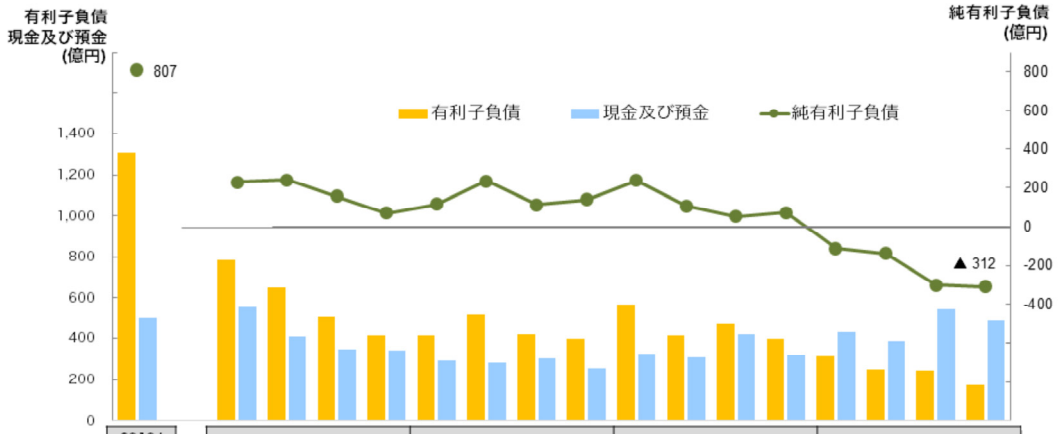
上記の結果として、フリーキャッシュ・フロー(FCF)は、431億円の高水準となりました

●財務活動によるキャッシュ・フローは、274億円の支出

→社債の償還(2016年6月と９月)や長期借入金の返済、配当金の支払い(2016年6月)をしました

SCREEN

連結有利子負債



	2010/3月期	2014/3月期				2015/3月期				2016/3月期				2017/3月期			
	6月末	6月末	9月末	12月末	3月末	6月末	9月末	12月末	3月末	6月末	9月末	12月末	3月末	6月末	9月末	12月末	3月末
有利子負債	1,310	786	649	507	413	413	520	417	396	565	416	473	396	317	248	245	175
現金及び預金	502	557	408	350	342	298	285	302	256	327	309	420	323	429	386	547	488
純有利子負債	807	229	240	156	71	115	235	114	140	238	107	53	72	▲112	▲138	▲302	▲312

●純有利子負債▲312億円、年間を通してマイナスを維持し、
ネットキャッシュポジションを通年継続しました

●有利子負債は175億円
→社債(2016年6月と9月)を償還したことなどにより、
前期比で220億円減少しました

●現金及び預金は488億円でした
→売上増加に伴い増加しました

●純有利子負債は▲312億円、ネットキャッシュポジションになりました。
→大幅なプラスとなった営業キャッシュ・フローなどにより、
前期末比で385億円減少しました
→今期(2018/3月期)もネットキャッシュ維持を見込んでいます

SCREEN

1. 2017年3月期　連結業績

2. セグメント別業績概況

3. 財務状況

4. 2018年3月期　業績予想

5. 中期3カ年経営計画について

SCREEN

2018年3月期 業績予想

(億円)	2017年3月期・実績 上期	2017年3月期・実績 下期	2017年3月期・実績 通期	2018年3月期・予想 上期	2018年3月期・予想 下期	2018年3月期・予想 通期
売上高	1,361	1,640	3,002	1,450	1,600	3,050
SE	916	1,144	2,060	940	1,080	2,020
GP	260	286	547			
GA	220	237	458	241	252	493
PE*	39	49	89	46	51	97
FT	179	201	381	208	187	395
その他	4	8	12	15	30	45
営業利益 営業利益率	121 8.9%	215 13.1%	337 11.2%	140 9.7%	200 12.5%	340 11.1%
経常利益	116	203	320	139	198	337
親会社株主に帰属する当期純利益	94	147	241	85	138	223

*2018年3月期より、PEソリューション事業

注）想定為替レート>> 1USドル＝105円、1ユーロ＝115円
期末配当予想>>　1株当たり87.00円

SCREEN Holdings Co.,Ltd.

●2018年3月期の業績予想(上期、下期、通期)：

・SE事業：CY2016年から続く好調な受注状況を踏まえ、前期に続き、2,000億円以上の高水準売上2,020億円を予想しています

→ 4Q(1-3月期)に四半期としては過去最高水準の637億円の売上を記録した影響で、前年度比では減収を予想しています

・GA事業：PODの販売拡大などにより増収増益を見込んでいます

・FT事業：現在の受注残高より、増収増益を見込んでいます

・PE事業：今期、PEセグメントができました(旧GPより独立)
独立して1期目となり、増収を見込んでいます

SCREEN

1. 2017年3月期　連結業績

2. セグメント別業績概況

3. 財務状況

4. 2018年3月期　業績予想

5. 中期3カ年経営計画について

SCREEN

中期３カ年経営計画 "Challenge 2016" <2014年4月-2017年3月>

>>結果の振り返り

3つの目標>>

① 収益構造改革の完遂
最終年度の営業利益率10%以上 → ○ 11.2%

② 財務体質の強化
最終年度の自己資本比率50%以上 → ○ 実質50%

③ 新規事業領域での事業化
4つの新規事業領域で黒字化 → ✕ 次期中計へ持ち越し

SCREEN

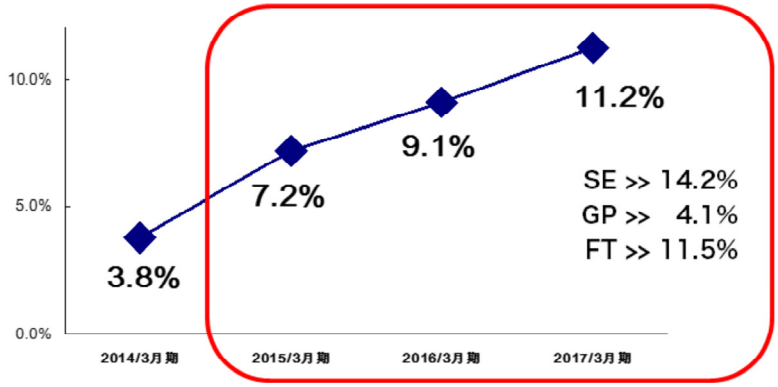
"Challenge 2016" 結果の振り返り

① 収益構造改革の完遂 → 全社で11.2%を達成

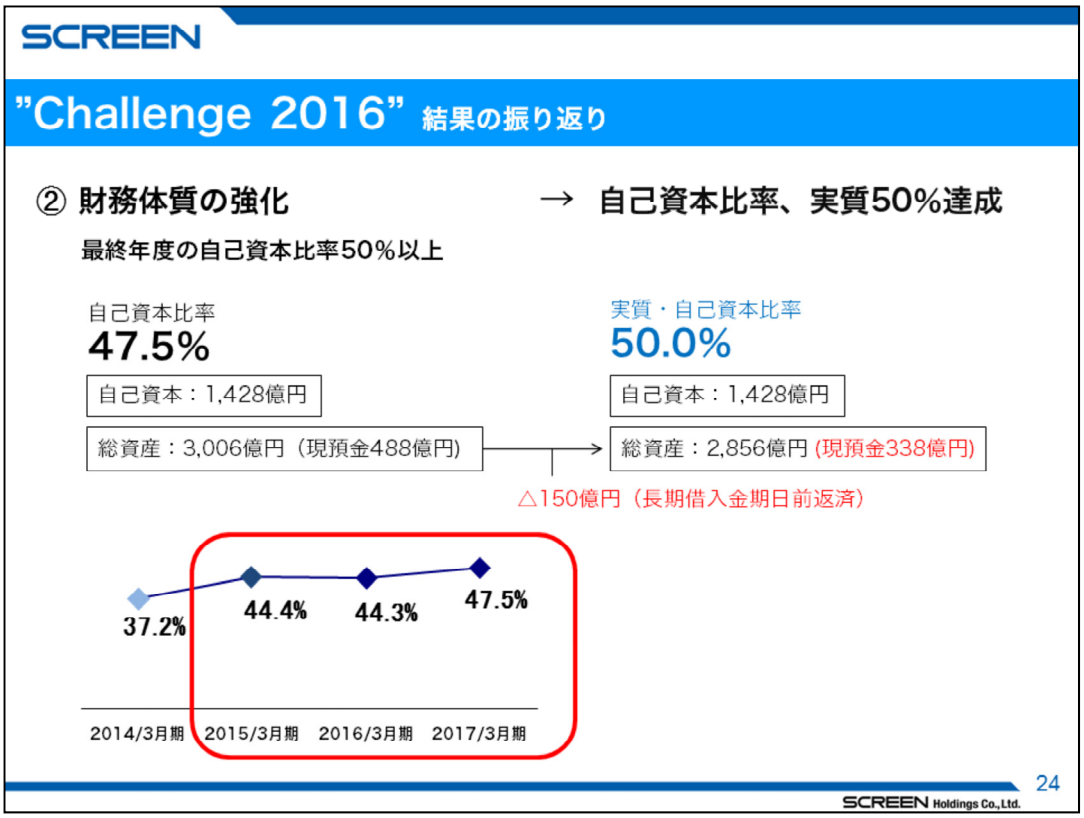
最終年度の営業利益率10%以上

SE、FTが牽引

- 全社で変動費率の改善を目指し、継続性も意識した予兆管理（損益分岐点売上の低減）を強化した。



SCREEN Holdings Co.,Ltd.



●自己資本比率、実質50%達成の背景：

→営業キャッシュ・フローの増加を背景に、負債削減を進め、長期借入150億円の早期返済も検討しましたが、最終的には、掛かるコストを鑑み、実施を見送りました。仮に、早期返済をしていれば、純資産2,856億円(現預金388億円)で、実質50.0%を達成したことになります。

SCREEN

"Challenge 2016" 結果の振り返り

③ 新規事業領域での事業化　→　次期中計へ持ち越し課題に

4つの新規事業領域での黒字化

>>エネルギー（FT）は、年間売上が20億円越えるレベルに到達。

>>検査・計測、ライフサイエンス、プリンテッドエレクトロニクスは、装置評価に想定より時間を要し、事業化が遅れた。

高速3Dスキャナー
Cell³iMager

インクジェット式錠剤印刷機
DP-i3000

SCREEN Holdings Co.,Ltd.

SCREEN

"Challenge 2016" 関連目標の振り返り

企業価値向上などの外部発表目標の達成状況

- 連結総還元性向25%を達成
  →配当で17%（予想ベース）、自己株式買いで8%
- ROEの向上により、JPX日経インデックス400構成銘柄に選定
  (2016年8月)
- FCFの最大化を目指し、ネットキャッシュポジションを達成
  (2017年3月期　第1四半期～)
- 日本格付研究所（JCR）による当社格付、
  「BBB（ポジティブ）」から「BBB+（安定的)」へ格上げ
  (2016年12月)

SCREEN

"Challenge 2016"

●ご参考>>　主要数字の変遷

(億円)	2013/3月期	2014/3月期	Challenge 2016		
			2015/3月期	2016/3月期	2017/3月期
売上高	1,997	2,359	2,376	2,596	3,002
営業利益	-48	89	171	235	337
営業利益率（%）	-2.4	3.8	7.2	9.1	11.2
総資産	2,323	2,323	2,495	2,700	3,006
自己資本	762	864	1,108	1,196	1,428
自己資本比率（%）	32.8	37.2	44.4	44.3	47.5
ROE（%）	-14.2	6.7	12.3	16.3	18.4
設備投資	64	45	66	63	82
研究開発	126	122	139	151	177
EPS（円）	-238.75	114.15	255.35	396.75	511.96

SCREEN

新・中期３カ年経営計画　“Challenge 2019”

基本コンセプト: グループの成長と質の向上

当社を取り巻く環境は、変化が激しく、スピードとイノベーションが求められ、常にビジネスチャンスは存在し、市場としても成長し続けるものと認識。

そのような環境下、Challenge 2019 では、前中期経営計画で確立した収益構造と財務基盤を維持しつつ、グループの成長と質の向上を目指し、持続的な利益創出や株主還元などを推進していく。

目標

1. **単年度連結売上高3,000億円レベル**
   売上規模の拡大
2. **最終年度の営業利益率13%以上**
   収益性の維持・向上
3. **ROE15%レベル**
   資本効率の維持・向上

上記における将来数値は、オーガニック･グロースを前提にしています。また、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績などはさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。

28

SCREEN Holdings Co.,Ltd.

●3,000億円レベルの売上を3年間継続することを目指します。
3,000億円を越える売上は、前期も含め、過去2度しかなく、
同様のレベルの売上を、3年維持することは、容易なことではなく
安定かつ持続的な成長へのチャレンジであると考えています

●SE、FT事業のみならず、GA、PE事業も営業利益率10%を越える前提
での目標です

●連結総還元性向、成長投資のバランスを勘案した上で、確実に
純利益を上げていくことにより、ROE15%レベルを維持します

SCREEN

"Challenge 2019"

主な取り組み

1 **既存事業における損益分岐点売上高比率の改善**
売上の変動に応じた損益分岐点売上高のコントロール

2 **装置ビジネスをベースとした周辺領域における収益基盤の確立**
改造を含むポストセールス（GA分野では消耗品ビジネス含む）のさらなる強化

3 **一定の財務規律を維持しながらも、積極的に成長投資を実行**
効果的なM&Aの検討・実施。オープンイノベーション戦略としての研究機関、
他社などとの協業、業務提携、ベンチャー企業への出資・支援などの検討・実施

4 **ESGに重点をおいたCSR経営の推進**

E：「環境価値」を創造し、低炭素・循環型社会への貢献
S：　ディーセント・ワーク（働き甲斐のある人間らしい仕事）の実現と、
　　社会的価値の創造
G：　守りと攻めのガバナンス体制の推進とESG情報の開示

5 **株主還元の充実**
連結総還元性向 25%以上を目指す

●今後もSEは、

顧客の付加価値向上を第一に取り組み、顧客の成長が自社の成長となる事業展開を進めてまいります。

SCREEN

“Challenge 2019” ＜事業環境や取り組み＞

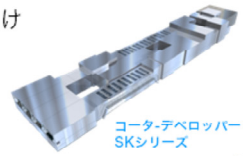
GA：シェア拡大を狙いつつ、収益構造改革を断行

- 外部環境：PODは商業印刷分野に拡大、一方、CTPは緩やかに減少
- 当社：CTPの売上を維持、POD（ラベル・パッケージ向けや連帳式IJ機）インクなどの消耗品のシェア増加
  →安定かつ成長が期待できるインクビジネスで売上増加（機能性インクの投入）
  →在庫抑制に注力しつつ、収益体質に変革

デジタル印刷機
Truepress Jet520NX

FT：新たな事業ポートフォリオを構築

- 外部環境：ディスプレー市場は、パネルの供給増加によりアレイコータ市場が縮小。新規領域では、電気自動車の増加によりLiB向け投資増加
- 当社：ディスプレー事業では、新たなアプリケーション向け（OLED、フレキシブル、車載用）の売上増で裾野拡大
  →新規事業領域（リソース増加）を拡大、事業ポートフォリオを変革



コータ-デベロッパー
SKシリーズ

SCREEN Holdings Co.,Ltd.

SCREEN

“Challenge 2019” ＜事業環境や取り組み＞

PE：市場でのプレゼンスを上げる

- 外部環境：スマートフォンの高機能機への買い換え需要は継続。自動車、通信、データストレージ、ロボット、医療産業でのIoT需要増加により、PCB市場は2020年に掛けて２～5%の成長を見込む
- 当社：2017年4月に独立会社に。新製品投入による売上拡大で、市場でのプレゼンスを上げる

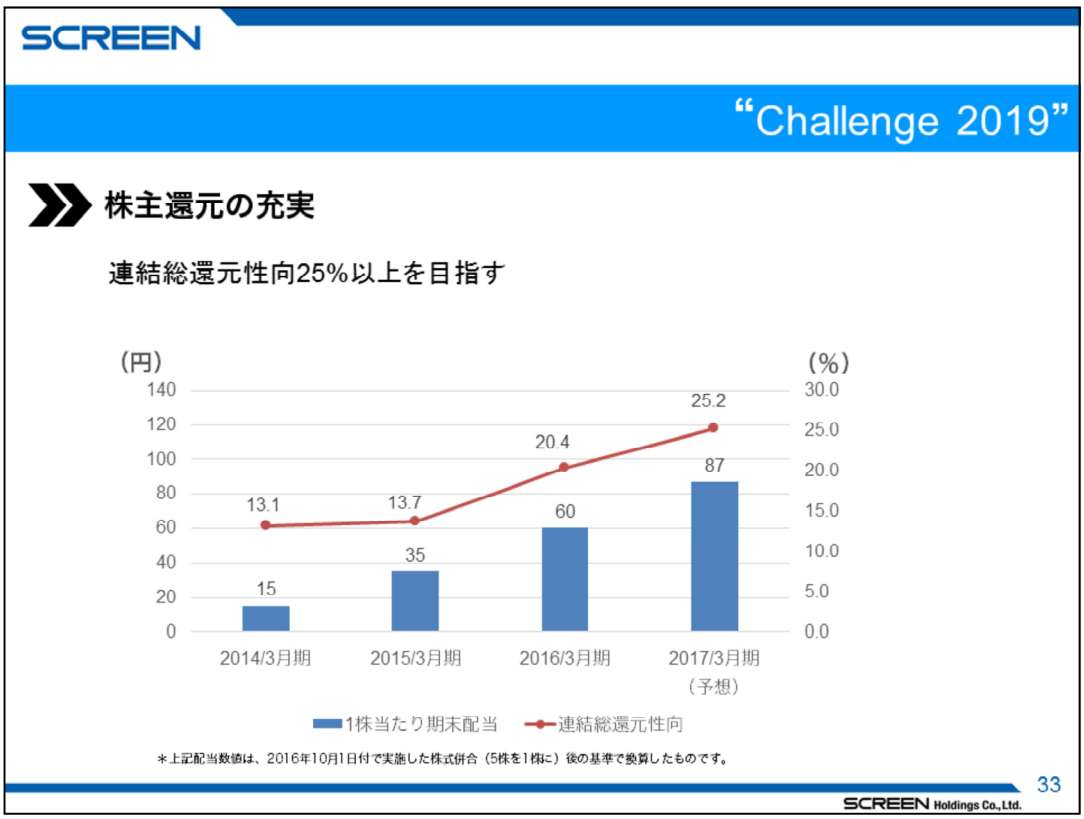
直接描画装置
Ledia 6

新規事業：新たなチャレンジ

- 外部環境：ライフサイエンス市場においては、創薬、再生医療、iPS細胞の研究開発投資の増加。自動車業界・検査・計測市場では、鍛造部品他の目視検査の自動化ニーズが増加
- 当社：成長市場をターゲットに製品ラインナップの拡充や営業力を強化
  →顧客企業での装置評価から、売上増加フェーズに移行

インクジェット式錠剤印刷機
DP-i3000

SCREEN Holdings Co.,Ltd.



●2017/3月期末予想

→配当87円予想で、配当性向17%程度、
2017年6月27日の株主総会で決議予定です。

SCREEN
Fit your needs, Fit your future

SCREEN